万国の労働者団結せよ！　万国の労働者と被抑圧民族団結せよ！

（毎月２回１日・15日発行）1969年12月20日第３種郵便物認可

2018-7-15
No.1026
250円

思想運動

活動家集団　思想運動
発行・小川町企画　〒113-0033 東京都文京区本郷３の29の10　飯島ビル１階　☎03・3818・6671 FAX03・3818・3199（郵便振替）00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080・4700・6461
HP http://www.shiso-undo.jp/
購読料：年間6,000円　半年3,000円（送料共）

西日本豪雨の被災者に心よりお見舞い申し上げます
政府・自治体は社会的弱者の立場にたった救済策を！

（関連記事６面）

「わたしたちはドレイではない！」　東京メトロ株主総会アピール行動でシュプレヒコールをするメトロコマース支部の組合員（６月28日　東京・上野の東京メトロ本社前　写真提供＝全国一般東京東部労組・関連記事６面）

朝鮮外務省談話の意味するもの
終戦宣言問題は優先的な課題

歴史的な朝米首脳会談から三週間が過ぎた七月六日・七日、平壌においてシンガポール共同声明を履行するための朝米高位級会談が開催された。米国側からはポンペオ国務長官が、朝鮮側からは金英哲朝鮮労働党副委員長らが出席した。会談後報道された両国のコミュニケには大きな隔たりがあり、前途にはまだ乗り越えねばならない困難と曲折があることを予測させた。

ナウアート米国務省報道官によれば、朝鮮の「非核化に向けた取り組みの検証」などを進めるための米朝両政府による作業部会を設置したとのこと。非核化について、「すべての重要な分野で進展があった」とした。（以上『朝日』記事）それにたいし朝鮮外務省スポークスマン談話（左記掲載）では、朝米会談で見せた「米国側の態度と立場は、実に残念極まりないものだった」と評価した。朝鮮側は、六・一二共同声明の「全ての条項のバランスの取れた履行のための建設的な方途」として、特に、「朝鮮半島での平和体制構築のためにまず朝鮮停戦協定締結六五周年を契機に終戦宣言を発表する問題」を提起したことを明らかにしたが、米国側は、「情勢の悪化と戦争を防止するための基本問題である」そのことには一切言及せず、「すでに合意された終戦宣言問題までいろいろな条件と口実を並べ、遠く後回しにしようとする立場を取った」。朝鮮外務省談話における米国批判の中心には、この「終戦宣言を一日もはやく発表する問題」があった。なぜなら、それは「強固な平和保障体制を構築するための最初の工程」であり、「朝米間信頼構築のための優先的な要素」で、「七〇年もの間続いてきた朝鮮半島の戦争状態にピリオドを打つ歴史的な課題として、北南間の板門店宣言にも明示されている問題」だからである。

この朝鮮側の正当な態度表明に対し、日本の商業紙は、「またしても北朝鮮が難癖をつけてきた」式の論調で、「北の遅延戦術に対処が必要だ」（『読売』）、「北の非核化へ結束緩めるな」（『日経』）等の社説をかかげ、「完全な非核化」に向け「具体的な行動を起こそうとしない」朝鮮側を責め（『毎日』）、「トランプ政権は安易な妥協をしてはならない」（『朝日』）と説教を垂れる。

過去の朝米交渉もそうだが、どちらの側が誠実に交渉に臨んでいるのか、正確に見極めねばならない。

【編集部】

朝鮮外務省スポークスマン談話
信頼構築の最優先と段階的な同時行動原則が非核化の近道

歴史的な初めての朝米首脳の対面と会談が行なわれた後、国際社会の期待と関心は朝米首脳会談の共同声明履行のための朝米高位級会談に集まった。

われわれは、米国側が朝米首脳の対面と会談の精神に即して信頼の構築に役立つ建設的な方案を持ってくるだろうと期待し、それに相応する何かをする考えもしていた。

しかし、六日と七日に行なわれた初の朝米高位級会談で見せた米国側の態度と立場は、実に残念極まりないものだった。

わが方は、朝米首脳の対面と会談の精神と合意事項を誠実に履行する変わらない意志から、今回の会談で共同声明のすべての条項のバランスの取れた履行のための建設的な方途を提起した。

朝米関係改善のための多面的な交流を実現する問題と、朝鮮半島での平和体制構築のためにまず朝鮮停戦協定締結六五周年を契機に終戦宣言を発表する問題、非核化措置の一環としてＩＣＢＭの生産中断を物理的に実証するために、高出力エンジン試験場を廃棄する問題、米軍遺骨発掘のための実務協商を早急に始める問題など、広範囲な行動措置を各々同時に取る問題を討議することを提起した。

会談に先立ち、朝鮮国務委員会の金正恩委員長がトランプ大統領に送る親書を、委任によってわが方の首席代表である金英哲党副委員長が、米国側の首席代表であるポンペオ国務長官に丁重に伝達した。国務委員長は、シンガポールでの首脳会談を通じてトランプ大統領と結んだすばらしい親交関係と大統領に対する信頼の感情が、今回の高位級会談をはじめ今後の対話過程を通じてさらに強固になるとの期待と確信を表明した。

しかし、米国側はシンガポールにおける首脳の対面と会談の精神に背き、ＣＶＩＤだの、申告だの、検証だのと言いながら、一方的で強盗さながらの非核化要求だけを持ち出した。

情勢の悪化と戦争を防止するための基本問題である朝鮮半島の平和体制構築問題については一切言及せず、すでに合意された終戦宣言問題までいろいろな条件と口実を並べ、遠く後回しにしようとする立場を取った。

終戦宣言を一日も早く発表する問題について言えば、朝鮮半島で緊張を緩和し、強固な平和保障体制を構築するための最初の工程であると同時に、朝米間の信頼構築のための優先的な要素であり、七〇年もの間続いてきた朝鮮半島の戦争状態にピリオドを打つ歴史的課題として、北南間の板門店宣言にも明示されている問題であり、朝米首脳会談でトランプ大統領がより熱意を見せた問題である。

米国側が会談において最後まで固執した諸問題は、過去、以前の行政府らが固執して対話の過程を台無しにし、不信と戦争の危険だけを増幅させた癌的存在である。

米国側は今回の会談で二つや二つの合同軍事演習を一時的に取り消したことを大きな譲歩のように宣伝したが、一挺の銃も廃棄せず、すべての兵力をそのままの位置に置いている状態で、演習という一つの動作だけを一時的に中止したのは、いつでも任意の瞬間にふたたび再開されうる可逆的な措置として、われわれが取った核実験場の不可逆的な爆破廃棄措置とは比べものにならない問題である。

会談の結果は、極めて憂慮すべきものだと言わざるを得ない。

米国側が朝米首脳の対面と会談の精神に合致する建設的な方案を持ってくるだろうと考えていたわれわれの期待と希望は、愚かだと言えるほど純真なものであった。

古い方式では絶対に新しいものを創造することができず、百戦百敗し腐り果てた古い方式を踏襲すれば、また失敗するしかない。

朝米関係史上、初めてとなるシンガポール首脳会談で短時間に貴重な合意が成し遂げられたのもまさに、トランプ大統領自身が朝米関係と朝鮮半島の非核化問題を新しい方式で解決しようとしたからである。

双方が首脳級で合意した新しい方式を実務的な専門家レベルで投げ捨て古い方式に戻るなら、両国人民の利益と世界の平和と安全のための新しい未来を開こうとする両首脳の決断と意志によってもたらされた世紀的なシンガポール首脳会談は無意味なものになってしまうであろう。

今回の初の朝米高位級会談を通じて朝米間の信頼はより強固になるどころか、むしろ確固不動であったわれわれの非核化意志が揺さぶられかねない危険な局面に直面した。

われわれはこの数か月間、できる限りの善意の措置を先に取りながら、最大の忍耐心を持って米国を注視してきた。

しかし、米国はわれわれの善意と忍耐心を誤って理解したようである。

米国は、自らの強盗的心理が反映された要求条件までも、われわれが忍耐心から受け入れると見なす根本的に間違った考えをしている。

朝米間の根深い不信を解消して信頼を構築し、そのために失敗だけを記録した過去の方式から大胆に脱し、既成に縛られないまったく新しい方式で解決していくこと、信頼醸成を優先させながら、段階的に同時行動の原則に基づいて、解決可能な問題からひとつずつ解決していくのが朝鮮半島非核化実現の最も速い近道である。

しかし、米国側が焦燥感にとらわれ以前の政権が持ち出していた古い方式をわれわれに強要しようとするなら、問題の解決に何の助けにもならないであろう。

われわれの意志とは別に、非核化の実現に当てはまる客観的環境が醸成されないなら、むしろ良好に始まった双務関係発展の気流が乱れる可能性がある。

逆風が吹き始めれば朝米両国にはもちろん、世界の平和と安全を願う国際社会にも大きな失望を与えかねず、そうなれば互いが必然的に他の選択を模索することになり、それが悲劇的な結果につながらないという担保はどこにもない。

われわれは、トランプ大統領に対する信頼心を今もそのまま持っている。

米国は両首脳の意志とは異なり、逆風を許すことが果たして世界の人民の志向と期待に合致し、自国の利益にも合致するのかを慎重に確かめるべきであろう。（了）

（朝鮮総聯中央本部　国際・統一局『コリア・ニュース』七四九号・二〇一八年七月九日）